

# 四半期報告書

(第156期第3四半期)

株式会社荏原製作所

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	9
第3 【提出会社の状況】 .....	10
1 【株式等の状況】 .....	10
2 【役員の状況】 .....	11
第4 【経理の状況】 .....	12
1 【四半期連結財務諸表】 .....	13
2 【その他】 .....	25
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	26

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2020年11月13日

**【四半期会計期間】** 第156期第3四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）

**【会社名】** 株式会社荏原製作所

**【英訳名】** EBARA CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表執行役社長 浅見 正男

**【本店の所在の場所】** 東京都大田区羽田旭町11番1号

**【電話番号】** 03(3743)6111

**【事務連絡者氏名】** 執行役 経理財務統括部長 長峰 明彦

**【最寄りの連絡場所】** 東京都大田区羽田旭町11番1号

**【電話番号】** 03(3743)6111

**【事務連絡者氏名】** 執行役 経理財務統括部長 長峰 明彦

**【縦覧に供する場所】** 株式会社荏原製作所大阪支社  
(大阪市北区堂島一丁目6番20号)  
株式会社荏原製作所中部支社  
(名古屋市西区菊井二丁目22番7号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第155期 第3四半期 連結累計期間	第156期 第3四半期 連結累計期間	第155期
会計期間	自 2019年1月1日 至 2019年9月30日	自 2020年1月1日 至 2020年9月30日	自 2019年1月1日 至 2019年12月31日
売上高 (百万円)	366,461	369,378	522,424
経常利益 (百万円)	20,010	20,515	35,571
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	11,863	12,357	23,349
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	9,455	11,200	25,043
純資産額 (百万円)	275,778	291,654	291,827
総資産額 (百万円)	578,815	624,467	595,239
1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	122.25	129.73	241.79
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	121.64	129.18	240.57
自己資本比率 (%)	46.3	45.4	47.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	17,258	64,113	26,720
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△16,032	△20,661	△24,077
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,407	20,434	△20,188
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (百万円)	114,708	158,772	93,351

回次	第155期 第3四半期 連結会計期間	第156期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	40.33	51.63

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません。

3. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)を第156期第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（追加情報）」をご参照ください。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものです。

#### （1）財政状態及び経営成績の状況

（単位：百万円）

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率（%）
受注高	379,803	366,081	△13,721	△3.6
売上高	366,461	369,378	2,917	0.8
営業利益	20,269	22,255	1,985	9.8
売上高営業利益率（%）	5.5	6.0	—	—
経常利益	20,010	20,515	504	2.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,863	12,357	493	4.2
1株当たり四半期純利益（円）	122.25	129.73	7.48	6.1

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響による景気減速から先行き不透明な状況が続きました。日本経済においても新型コロナウイルス感染症の影響により設備投資は弱い動きとなっており厳しい状況が続きましたが、一方で公共投資は大規模自然災害からの復旧・復興対策などに向けて堅調に推移しました。

当社グループの主要市場である石油・ガス市場においては新型コロナウイルス感染症の影響と原油価格下落の影響が継続し、案件の遅延や延期の動きがありました。半導体市場においては引き続き設備投資は回復傾向にあるものの、米中貿易摩擦の影響により一部の設備投資で延期が見られました。日本国内の建築設備市場においては、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による工事中断や遅延の動きがありました。

このような環境下、当第3四半期連結累計期間の受注高は、国内建築設備市場における需要回復遅れや石油・ガス市場における投資先送り、諸外国での移動制限の影響などもあり風水力事業を中心に前年同期を下回りました。売上高については、風水力事業や環境プラント事業で前年同期を下回りましたが、5Gやデータセンターの需要拡大、リモートワークの普及など半導体需要の高まりを受けて精密・電子事業が大きく伸長しており、全体では前年同期を上回りました。営業利益については、精密・電子事業の増収に加え、風水力事業における製品の採算性改善や固定費抑制などにより、前年同期を上回りました。

当第3四半期連結累計期間における受注高は3,660億81百万円（前年同期比3.6%減）、売上高は3,693億78百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は222億55百万円（前年同期比9.8%増）、経常利益は205億15百万円（前年同期比2.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は123億57百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2018年3月30日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2018年3月30日）を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。




《事業セグメント別の概況》

(単位：百万円)

セグメント	受注高			売上高			セグメント損益		
	前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減率 (%)	前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減率 (%)	前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減率 (%)
風水力	237,252	221,713	△6.5	228,088	220,868	△3.2	8,333	11,317	35.8
環境プラント	52,107	47,994	△7.9	48,498	44,011	△9.3	5,541	4,044	△27.0
精密・電子	89,290	95,239	6.7	88,721	103,381	16.5	6,274	7,483	19.3
報告セグメント計	378,649	364,948	△3.6	365,308	368,261	0.8	20,149	22,846	13.4
その他	1,153	1,133	△1.7	1,152	1,116	△3.1	100	△536	—
調整額	—	—	—	—	—	—	19	△54	—
合計	379,803	366,081	△3.6	366,461	369,378	0.8	20,269	22,255	9.8

前述のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しています。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

《事業セグメント別の事業環境と事業概況》

セグメント		2020年12月期第3 四半期の事業環境	2020年12月期第3 四半期の事業概況と受注高の増減率（注） 1
風水力	ポンプ	<p>&lt;海外&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石油・ガス市場は、中国は堅調だが、新型コロナウイルス感染症と原油価格下落の影響により、他の地域では軒並み案件が遅延・延期となっている。顧客からの引合いも低調で、少数の案件に多数のベンダーが入札し価格競争が激化している。</li> <li>水インフラ市場は、中国、東南アジアで案件に動きがあり回復傾向にある。一方、北米では老朽化設備更新の需要が増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、発注者となる公共機関の機能低下に伴い各案件の始動が遅れている。</li> <li>電力市場はCO2排出規制の影響を受けて石炭火力が低調であるが、ガス火力の需要は堅調。</li> </ul> <p>&lt;国内&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築設備市場は、建築着工棟数の減少等により縮小傾向にある。</li> <li>社会インフラの更新・補修に対する投資は、前年同期と同程度。</li> </ul>	<p>&lt;海外&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石油・ガス関連の受注は前年同期を下回る。</li> <li>水インフラの受注は、前年同期を下回る。</li> <li>電力関連の受注は前年同期を下回る。</li> </ul> <p>&lt;国内&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築設備向けの受注は新型コロナウイルス感染症の影響による工事中断や着工遅延などにより、前年同期を下回る。</li> <li>公共向けの受注は総合評価案件やアフターサービスの受注拡大等の施策の効果により前年同期を上回る。</li> </ul> 
	コンプレッサ・タービン	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規製品市場全体としては、中国で石油化学が依然堅調に推移している一方、北米ではシェールガス由来のエチレンプラントやLNGプロジェクトが遅延、停滞している。インド、ロシアでも引き続き投資が遅延傾向にある。</li> <li>サービス市場は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための移動制限により、指導員派遣で影響が続いており、全体として低調に推移している。</li> <li>LNG市場（クライオポンプ）は、一部案件に動きはあるものの、原油価格下落の影響が続いており、投資判断が遅延傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規製品の受注は低調であるものの、厳しい価格競争や案件遅延の影響が大きかった前年同期を上回る。</li> <li>サービス分野の受注は、前年同期を下回る。</li> </ul> 
	冷熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では、生活様式の変化の影響を受けた宿泊施設や大型ショッピングセンター等の設備更新計画や既設製品の定期メンテナンス案件の延期・凍結が見られる。</li> <li>中国では、火力発電等の一部業界で、市場回復が遅れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の受注は前年同期を下回る。</li> <li>中国の受注は前年同期を下回る。</li> </ul> 



セグメント	2020年12月期第3四半期の事業環境	2020年12月期第3四半期の事業概況と受注高の増減率(注) 1
環境プラント (注) 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共向け廃棄物処理施設の新規建設需要は例年どおり推移している。</li> <li>既存施設のO&amp;Mの発注量は例年どおり推移している。</li> <li>民間企業向けの本質バイオマス発電施設や廃プラスチック等を処理する産業廃棄物処理施設の建設需要は継続している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共向け廃棄物処理施設のDBO案件1件、基幹改良工事1件を受注したが、大型の公共向けDBO案件及び基幹改良工事2件、民需案件2件を受注した前年同期を下回る。</li> </ul> <p>&lt;大型案件の受注状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共向け廃棄物処理施設のDBO案件(1件)</li> <li>公共向け長期包括契約(前期までに落札したDBO案件の長期包括部分)(1件)</li> <li>公共向け廃棄物処理施設の基幹改良工事案件(1件)</li> </ul>
精密・電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体市場及び半導体製造装置市場は新型コロナウイルス感染症による経済活動停滞の影響を受けつつも、IoTやテレワークの普及等を中心とする半導体需要の底堅さにより、全体としては回復傾向にある。</li> <li>ファウンドリ及びメモリメーカーの設備投資は回復基調が続いているが、一方で米中貿易摩擦の影響を受け、一部の半導体設備投資で延期される案件が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファウンドリに加え、メモリメーカーの設備投資は回復基調にあり、受注高は前年同期を上回る。</li> <li>顧客の稼働は高い状況が継続されていること、また一部の顧客で、新型コロナウイルス感染症拡大による稼働停止リスクを低減するための安全在庫増加施策が継続されていることもあり、サービス&amp;サポートは引き続き好調に推移している。</li> </ul>

(注) 1. 矢印は受注高の前年同期比の増減率を示しています。

+5%以上の場合は 、△5%以下の場合は 、±5%の範囲内の場合は  で表しています。

2. O&M (Operation & Maintenance) ……プラントの運転管理・メンテナンス  
 DBO (Design, Build, Operate) ……プラントの設計・調達・建設に加え、建設後の運転管理・メンテナンスを一定期間請け負う。

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前年度末に比べて受取手形及び売掛金が271億4百万円、仕掛品が204億32百万円減少した一方、現金及び預金が644億62百万円増加したことなどにより、292億28百万円増加し、6,244億67百万円となりました。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債総額は、前年度末に比べて工事損失引当金が72億42百万円減少した一方、短期借入金277億75百万円、流動負債その他(前受金等)が145億48百万円増加したことなどにより、294億2百万円増加し、3,328億13百万円となりました。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産について、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益123億57百万円及び連結範囲の変動に伴う利益剰余金5億25百万円により増加した一方、「収益認識に関する会計基準」等の適用による当期首残高44億73百万円の減少及び配当金の支払い57億13百万円により26億94百万円増加したことに加え、為替換算調整勘定が36億19百万円減少したことなどにより、前年度末に比べて1億73百万円減少し、2,916億54百万円となりました。自己資本は2,836億76百万円で、自己資本比率は45.4%となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

### ① キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の回収が進んだ結果、641億13百万円の収入超過（前年同期比468億55百万円の収入増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出222億96百万円などにより、206億61百万円の支出超過（前年同期比46億29百万円の支出増加）となりました。

営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは、434億51百万円の収入超過（前年同期比422億26百万円の収入増加）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金及び長期借入金が純額で280億43百万円増加したことや、配当金を57億13百万円支払ったことなどにより、204億34百万円の収入超過（前年同期比170億27百万円の収入増加）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前年度末から654億21百万円増加し、1,587億72百万円となりました。

### ② 財務戦略の基本方針

当社グループは、企業価値向上のために適宜適切なタイミングで経営資源を配分することを財務戦略の基本方針としており、強固な財務体質と高い資本効率をともに兼ね備えることが重要だと考えています。

自己資本は信用格付として維持すべき水準と考える『シングルAフラット（※）』となり、現在の事業推進に必要な十分な状態となっています。従って、現在の当社の財務の状態においては、売上債権、棚卸資産を圧縮し、創出された資金を厳選した成長投資に振り向け固定資産を増強する一方、資本効率を高めるために自己資本を一定水準に抑制していきます。

（※）格付投資情報センター（R&I）による格付

### ③ 資金調達について

当社グループは、事業を行う上で必要となる運転資金や成長のための投資資金を、営業キャッシュ・フローを主とした内部資金だけでなく金融機関からの借入や社債の発行などの外部資金を有効に活用していきます。D/Eレシオは0.3～0.5を基準に負債の活用を進め、資本コストの低減・資本効率の向上を図ります。

また、資金の流動性については、連結売上高の2か月分を目安に適正水準の範囲でコントロールする方針です。これに加えて、金融上のリスクに対応するためにコミットメントライン契約等を締結することで、手許流動性を確保しています。また、グループ内の資金効率を高めるため、余資は当社に集中し、不足するグループ会社に配分する制度を運用しています。

なお、足許では新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に備え、手許流動性と資金調達枠の確保に努めます。代替流動性と社債の発行枠の状況は以下のとおりです。

#### 代替流動性

当座貸越契約 50億円

コミットメントライン契約 800億円

いずれの契約においても、当連結会計年度末の借入実行残高はありません。

#### 社債発行枠

社債 発行登録枠 600億円

コマーシャルペーパー 発行限度枠 400億円

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は、89億97百万円です。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当該第3四半期連結累計期間において、当社グループの会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

(6) 今後の見通し

《事業セグメント別の事業環境の見通し》

セグメント		事業環境
風水力	ポンプ	<p>&lt;海外&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石油・ガス市場は、中国では堅調に推移すると見込まれる。中国以外の地域は新型コロナウイルス感染症による景気減退、特に原油価格下落の影響により、石油化学・石油精製プラント向け新規製品市場・サービス市場共に、多くの新規投資判断が保留されている状況だが、2021年以降、化成品製造用途のプラントから各案件が再始動していくと見込まれる。一方、燃料用途の石油精製プラント案件は中止される可能性がある。</li> <li>水インフラ市場は、新型コロナウイルス感染症の影響により、老朽化設備更新需要が中心である北米市場では遅延が続いており、再始動には相当の時間がかかると見込まれる。一方、中国、東南アジアでは新設インフラ案件中心であるため堅調に推移すると見込まれる。</li> <li>電力市場では、CO2排出量削減の機運拡大で大型石炭火力市場が縮小すると見込まれる。</li> <li>中東情勢の不安定化により、新規製品、サービス分野のプロジェクトが延期もしくは凍結される可能性がある。</li> </ul> <p>&lt;国内&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築設備向け市場は、東京オリンピック・パラリンピックまでに開業を目指した首都圏の大型開発が一旦新規案件に切り替わるが、当社業績への影響は来期以降となる見込み。中小案件は新型コロナウイルス感染症の影響により、マンションやオフィス需要が停滞しており、新規の民間投資の冷え込みが懸念される。</li> <li>公共向けは自然災害に対する事前防災対策や社会インフラの老朽化対策が推進されることにより堅調に推移すると見込まれる。</li> <li>国内石炭火力発電容量の大幅な縮減が検討されており、縮減の際に必要な代替エネルギーとして再生可能エネルギーの開発及び原子力再稼働が進むと見込まれる。それに伴い、火力発電分野におけるアフターサービスの縮小傾向が強まる可能性がある。</li> </ul>
	コンプレッサ・タービン	<ul style="list-style-type: none"> <li>原油価格の低迷、新型コロナウイルス感染症による景気減退の影響により、石油化学・石油精製プラント向け新規製品市場・サービス市場共に、投資の落ち込みや投資判断の遅延が見込まれる。一方、新規製品市場では中国が堅調に推移し、サービス市場では中東で案件の動きが今後見込まれる。</li> <li>LNG市場は北米では大型案件の遅延が見込まれる一方、中東・アフリカでは今後案件に動きが見込まれる。</li> </ul>
	冷熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内市場は、生活様式の激変を経て、宿泊施設や大型ショッピングセンター等の市場は縮小・低調のまま推移すると見込まれる。</li> <li>中国市場全般は回復の基調にあるものの、火力発電など回復の遅れている市場では、価格競争が激化すると見込まれる。</li> </ul>
環境プラント		<ul style="list-style-type: none"> <li>公共向け廃棄物処理施設の新規建設需要は例年どおりに推移すると見込まれる。</li> <li>民間企業向けの木質バイオマス発電施設や廃プラスチック等を処理する産業廃棄物処理施設の建設需要は継続すると見込まれる。</li> <li>既存施設のO&amp;Mの需要は例年並みと見込まれる。</li> <li>新型コロナウイルスの感染状況によっては、発注の延期や工事進捗の遅延等が生じる可能性がある。</li> </ul>
精密・電子		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の再拡大の懸念に加え、米中貿易摩擦を発端とする半導体製造メーカーの投資動向の変化が顕在化しつつあり、短期的な市況変化には注視が必要である。しかし中長期的にはICAC5(IoT, Cloud, AI, Car (車の自動運転), 5G)を中心とした半導体需要の拡大は継続し、半導体製造装置市場は成長が続く見通しである。</li> </ul>

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	95,353,053	95,388,253	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式。単元株式数は 100株です。
計	95,353,053	95,388,253	—	—

(注) 1. 2020年10月1日から2020年10月31日までの間に、新株予約権（ストック・オプション）の行使により35,200株発行しています。

2. 提出日現在発行数には、2020年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれていません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金 残高(百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日 (注) 1	2,000	95,353,053	3	79,407	3	83,336

(注) 1. 新株予約権（ストック・オプション）の行使による増加です。

2. 2020年10月1日から2020年10月31日までの間に、新株予約権（ストック・オプション）の行使により、発行済株式総数が35,200株、資本金及び資本準備金がそれぞれ40百万円増加しています。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

① 【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 18,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 95,181,900	951,819	同上
単元未満株式	普通株式 151,153	—	同上
発行済株式総数	95,351,053	—	—
総株主の議決権	—	951,819	—

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が400株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれています。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式52株が含まれています。

② 【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社荏原製作所	東京都大田区 羽田旭町11番1号	18,000	—	18,000	0.02
計	—	18,000	—	18,000	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しています。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	94,014	158,477
受取手形及び売掛金	※3 182,944	155,840
電子記録債権	※3 9,218	8,797
有価証券	1,097	3,176
商品及び製品	18,386	18,332
仕掛品	70,082	49,649
原材料及び貯蔵品	32,633	35,660
その他	15,659	18,113
貸倒引当金	△2,107	△2,088
流動資産合計	421,929	445,959
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	56,022	56,816
機械装置及び運搬具（純額）	27,960	28,426
その他（純額）	40,916	48,453
有形固定資産合計	124,898	133,697
無形固定資産		
投資その他の資産	10,343	12,233
投資有価証券	19,666	12,217
その他	23,843	25,580
貸倒引当金	△5,442	△5,220
投資その他の資産合計	38,067	32,577
固定資産合計	173,309	178,508
資産合計	595,239	624,467



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 60,580	54,810
電子記録債務	59,847	61,313
短期借入金	50,965	78,741
賞与引当金	6,629	9,214
役員賞与引当金	348	340
完成工事補償引当金	3,369	3,652
製品保証引当金	3,658	4,233
工事損失引当金	12,901	5,658
その他	61,780	76,329
流動負債合計	260,082	294,294
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	18,340	16,270
役員退職慰労引当金	107	113
退職給付に係る負債	9,362	7,641
資産除去債務	2,401	2,405
その他	3,117	2,088
固定負債合計	43,328	38,519
負債合計	303,411	332,813
純資産の部		
株主資本		
資本金	79,155	79,407
資本剰余金	74,848	75,101
利益剰余金	141,675	144,369
自己株式	△174	△177
株主資本合計	295,504	298,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	233	172
繰延ヘッジ損益	△24	△53
為替換算調整勘定	△2,891	△6,511
退職給付に係る調整累計額	△9,168	△8,631
その他の包括利益累計額合計	△11,852	△15,024
新株予約権	1,132	852
非支配株主持分	7,043	7,124
純資産合計	291,827	291,654
負債純資産合計	595,239	624,467

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	366,461	369,378
売上原価	273,476	268,811
売上総利益	92,984	100,566
販売費及び一般管理費	72,715	78,311
営業利益	20,269	22,255
営業外収益		
受取利息	241	238
受取配当金	260	40
持分法による投資利益	514	465
その他	1,024	520
営業外収益合計	2,041	1,264
営業外費用		
支払利息	1,043	918
為替差損	906	1,445
その他	350	640
営業外費用合計	2,300	3,004
経常利益	20,010	20,515
特別利益		
固定資産売却益	17	38
投資有価証券売却益	217	76
特別利益合計	235	115
特別損失		
固定資産売却損	2	7
固定資産除却損	118	56
減損損失	861	169
投資有価証券売却損	127	227
その他	2	0
特別損失合計	1,112	460
税金等調整前四半期純利益	19,134	20,170
法人税等	5,980	6,482
四半期純利益	13,153	13,687
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,289	1,330
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,863	12,357

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	13,153	13,687
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41	△49
繰延ヘッジ損益	45	△28
為替換算調整勘定	△4,497	△2,937
退職給付に係る調整額	712	544
持分法適用会社に対する持分相当額	81	△15
その他の包括利益合計	△3,698	△2,486
四半期包括利益	9,455	11,200
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,329	9,904
非支配株主に係る四半期包括利益	1,125	1,296

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	19,134	20,170
減価償却費	11,161	11,960
減損損失	861	169
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	△90	150
引当金の増減額 (△は減少)	734	2,409
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1,387	△1,681
固定資産売却損益 (△は益)	△15	△31
受取利息及び受取配当金	△502	△278
支払利息	1,043	918
売上債権の増減額 (△は増加)	17,164	28,875
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△760	7,775
仕入債務の増減額 (△は減少)	△23,613	△11,412
その他	2,150	11,640
小計	25,879	70,667
利息及び配当金の受取額	406	589
利息の支払額	△1,000	△879
法人税等の支払額	△8,026	△6,263
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,258	64,113
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	△18,367	△22,296
固定資産の売却による収入	53	82
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△2,365	△704
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	4,607	1,949
定期預金の預入による支出	△1,097	△2,657
定期預金の払戻による収入	1,084	2,998
貸付けによる支出	△7	△24
貸付金の回収による収入	25	38
その他	34	△47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,032	△20,661
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	25,455	30,976
長期借入れによる収入	1,298	620
長期借入金の返済による支出	△1,193	△3,553
自己株式の取得による支出	△15,003	△2
自己株式の処分による収入	0	—
配当金の支払額	△5,877	△5,713
非支配株主への配当金の支払額	△687	△1,282
その他	△583	△610
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,407	20,434
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,167	△369
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,465	63,516
現金及び現金同等物の期首残高	110,556	93,351
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	686	1,904
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 114,708	※ 158,772

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、連結の範囲に関する重要性の判断基準に従って、EBARA MACHINERY INDIA PRIVATE LIMITED、株式会社むさしのEサービス、株式会社イー・シー・イー他23社を連結の範囲に含めており、また、新たに設立した株式会社さくEサービスを連結の範囲に含めています。

第2四半期連結会計期間より、新たに設立したEbara Pumps Mexico, S.A. de C.V.、株式会社なおEサービス、荏原イノベーションパートナーズ株式会社を連結の範囲に含めています。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2018年3月30日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号2018年3月30日)が2018年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

### (1) 一定期間にわたり充足される履行義務

従来、工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用していましたが、少額かつごく短期な工事を除き、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しています。

なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、履行義務の結果を合理的に測定できる場合は、見積総原価に対する実際原価の割合(インプット法)で算出しています。履行義務の結果を合理的に測定できない場合は、発生した実際原価の範囲でのみ収益を認識し、少額かつごく短期な工事については完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しています。

### (2) 一時点で充足される履行義務

従来、精密・電子事業の半導体製造装置に関して、客先での設置が完了した時点で収益を認識していましたが、客先での設置完了後の性能確認が完了した時点で収益を認識することとしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しています。

ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、次の①から③の処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しています。

- ① 履行義務の充足分及び未充足分の区分
- ② 取引価格の算定
- ③ 履行義務の充足分及び未充足分への取引価格の配分

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が1,147百万円減少し、売上原価は230百万円減少し、販売費及び一般管理費は112百万円減少し、営業利益及び経常利益、並びに税金等調整前四半期純利益がそれぞれ805百万円減少しています。また、利益剰余金の当期首残高は4,473百万円減少しています。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大)

新型コロナウイルス感染症の拡大は世界的に継続し、現時点でもなお大きな脅威として存在し、予断を許さない状況が続いています。一方で“withコロナ”と呼ばれる感染予防と経済活動の共存に向けた動きは活発化しており、社会・産業インフラの需要は一時期に比べて改善しています。

その結果、当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に行った会計上の見積りに用いた仮定に重要な影響はありません。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が当該前提と乖離する場合には、当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

#### 1 保証債務

(1) 従業員住宅資金の銀行借入に対する保証

前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
42百万円	36百万円

(2) 非連結子会社及び関連会社の銀行借入等に対する保証

前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)	
(株)いせEサービス	643百万円	該当事項はありません
(株)えんがるEサービス	30百万円	
(株)よこてEサービス	28百万円	
EBARA PUMPS SAUDI ARABIA LLC	17百万円	
(株)ふなばしEサービス	2百万円	
計	722百万円	計 一百万円

#### 2 当座貸越契約及び貸出コミットメント

代替流動性の充実を目的に当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しています。これら契約に基づく四半期連結会計期間末の借入未実行残高は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
当座貸越極度額	5,000百万円	5,000百万円
貸出コミットメント	45,000百万円	80,000百万円
借入実行残高	一百万円	一百万円
差引額	50,000百万円	85,000百万円

※3 四半期連結会計期間末日満期手形等の処理

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しています。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、以下の前連結会計年度末日満期手形等が、前連結会計年度末日残高に含まれています。

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
受取手形	2,048 百万円	－ 百万円
電子記録債権	466 百万円	－ 百万円
支払手形	2,463 百万円	－ 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の当四半期末残高と当第3四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	112,036百万円	158,477百万円
有価証券	4,321百万円	3,176百万円
償還期間が3か月を超える有価証券等	△1百万円	△530百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△1,647百万円	△2,349百万円
現金及び現金同等物	114,708百万円	158,772百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月28日 定時株主総会	普通株式	3,000	30.00	2018年12月31日	2019年3月29日	利益剰余金
2019年8月9日 取締役会	普通株式	2,876	30.00	2019年6月30日	2019年9月10日	利益剰余金

2. 株主資本の著しい変動

当社は、2019年2月13日開催の取締役会において、普通株式7,000,000株(取得総額15,000百万円)を上限とした自己株式を取得する旨を決議しました。2019年8月8日までに4,970,800株(取得総額14,999百万円)を取得し、当該決議に基づく自己株式の取得を終了しています。以上の結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が15,003百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が20,443百万円となっています。

また、2019年10月15日開催の取締役会において、自己株式を消却する旨を決議し、2019年10月31日付で自己株式6,900,000株を消却しています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月27日 定時株主総会	普通株式	2,853	30.00	2019年12月31日	2020年3月30日	利益剰余金
2020年8月11日 取締役会	普通株式	2,859	30.00	2020年6月30日	2020年9月11日	利益剰余金

2. 株主資本の著しい変動

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2019年1月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	風水力事業	環境プラ ント事業	精密・電子 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	228,088	48,498	88,721	365,308	1,152	366,461	—	366,461
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	450	4	—	455	1,948	2,404	△2,404	—
計	228,538	48,503	88,721	365,763	3,101	368,865	△2,404	366,461
セグメント利益	8,333	5,541	6,274	20,149	100	20,249	19	20,269

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビジネスサポートサービス等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2020年1月1日 至 2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	風水力事業	環境プラ ント事業	精密・電子 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	220,868	44,011	103,381	368,261	1,116	369,378	—	369,378
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	446	8	0	455	1,925	2,380	△2,380	—
計	221,315	44,019	103,382	368,716	3,042	371,759	△2,380	369,378
セグメント利益 又は損失(△)	11,317	4,044	7,483	22,846	△536	22,309	△54	22,255

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビジネスサポートサービス等を含んでいます。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しています。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の風水力事業の売上高が600百万円減少、セグメント利益が302百万円増加し、環境プラント事業の売上高が994百万円減少、セグメント利益が741百万円減少し、精密・電子事業の売上高が447百万円増加、セグメント利益が366百万円減少しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	122.25円	129.73円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	11,863	12,357
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 金額 (百万円)	11,863	12,357
普通株式の期中平均株式数 (株)	97,047,879	95,255,802
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	121.64円	129.18円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万 円)	—	—
普通株式増加数 (株)	484,520	401,192
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 り四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要	—	—

(重要な後発事象)

(社債の発行)

当社は、2020年9月14日開催の取締役会決議に基づき、2020年10月22日に第10回無担保社債を下記のとおり発行しました。

株式会社荏原製作所第10回無担保社債(社債間限定同順位特約付)

- |          |                    |
|----------|--------------------|
| (1) 発行総額 | 100億円              |
| (2) 発行価格 | 各社債の金額100円につき金100円 |
| (3) 利率   | 年0.190%            |
| (4) 払込期日 | 2020年10月22日        |
| (5) 償還期日 | 2025年10月22日        |
| (6) 償還方法 | 満期一括償還             |
| (7) 資金使途 | 設備資金及び投融資資金に充当予定   |

## 2 【その他】

### (1) 中間配当

2020年8月11日開催の取締役会において、中間配当の実施に関し決議しました。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (株主資本等関係)」に記載のとおりです。

### (2) 岐阜市東部クリーンセンター粗大ごみ処理施設の火災事故に関する係争について

2015年10月23日に、岐阜県岐阜市芥見の岐阜市東部クリーンセンター粗大ごみ処理施設において、当社連結子会社の荏原環境プラント株式会社（以下、EEP）による設備修繕作業中に火災事故が発生しました。なお、EEPは粗大ごみ処理施設に隣接するごみ焼却施設の運転管理業務を受託しています。

本事故の損害賠償に関し、岐阜市と対応を協議してまいりましたが、岐阜市からEEPに対し、43億62百万円及びその遅延損害金の支払いを求める損害賠償請求訴訟が岐阜地方裁判所に2019年1月31日付で提起されました。その後、岐阜市が2019年7月22日付で、損害賠償請求金額を44億74百万円及びその遅延損害金に変更する訴えの変更申立てを行い、EEPはその変更申立てを2019年7月25日に受領しました。さらに、岐阜市が2020年7月17日付で、損害賠償請求金額を45億82百万円及びその遅延損害金に変更する訴えの変更申立てを行い、EEPはその変更申立てを2020年7月20日に受領しました。現時点で当該事象が連結業績に与える影響を合理的に見積もることは困難な状況です。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

株式会社荏原製作所  
取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上林 三子雄	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	堀越 喜臣	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	安藤 隆之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社荏原製作所の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社荏原製作所及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

注記事項（会計方針の変更）に記載されているとおり、会社は当第1四半期連結会計期間より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2018年3月30日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2018年3月30日）を適用している。当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2020年11月13日

**【会社名】** 株式会社荏原製作所

**【英訳名】** EBARA CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表執行役社長 浅見 正男

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 東京都大田区羽田旭町11番1号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社荏原製作所大阪支社  
(大阪市北区堂島一丁目6番20号)  
株式会社荏原製作所中部支社  
(名古屋市西区菊井二丁目22番7号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 浅見 正男は、当社の第156期第3四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。